

東海大学医学部泌尿器科学教室における 手術統計（1982年1月～1984年3月）

東海大学医学部泌尿器科学教室（主任：河村信夫教授）

長田 恵弘・日原 徹・星野 英章*
中島 登・宮北 英司・川嶋 敏文
白水 幹・西沢 和亮・谷川 克己**
村上 泰秀*・勝岡 洋治・岡田 敬司
松下 一男**・木下 英親
河村 信夫・大越 正秋***

STATISTICS ON OPERATIONS IN DEPARTMENT OF UROLOGY,
SCHOOL OF MEDICINE, TOKAI UNIVERSITY
(JANUARY, 1982 TO MARCH, 1984)

Yoshihiro NAGATA, Toru HIHARA, Hideaki HOSHINO,
Noboru NAKAJIMA, Hideshi MIYAKITA, Toshifumi KAWASHIMA,
Miki SHIRAMIZU, Kazuaki NISHIZAWA, Katsumi TANIKAWA,
Yasuhide MURAKAMI, Yoji KATSUOKA, Keishi OKADA,
Kazuo MATSUSHITA, Hidechika KINOSHITA,
Nobuo KAWAMURA and Masaaki OHKOSHI
From the Department of Urology, School of Medicine, Tokai University
(Director: Prof. N. Kawamura)

A total of 794 operations were performed at the Department of Urology, Tokai University Hospital between January, 1982 and March, 1984, including 5 operations on the adrenal gland, 64 operations on the kidney, 48 operations on the ureter, 93 operations on the urinary bladder, 124 operations on the prostate, 25 operations on the urethra, 124 operations on the penis, 190 operations on the scrotum and 19 operations on other organs.

Key words: Statistics on operation, Urology, Tokai University

緒 言

東海大学病院開設後、3年間、1982年2月までの手術統計を1979年1月の泌尿紀要誌に報告した¹⁾。さらに1978年3月より1981年12月までの当科における手術統計を1982年9月の泌尿紀要誌に報告した²⁾。今回これらの報告につながるものとして、1982年1月より

1984年3月までの2年3カ月の手術統計を報告する。

当院は、都市まで、車で約1時間、電車でも1時間30分を要する距離にあり、現在では、東京および横浜のベッドタウンに変化しつつある。医局員の構成は、1982年3月の時点で、教授1、助教授1、講師1、助手1、研修医6、大学院生1の計11名であるが、研修医は、腹部外科、麻酔科、放射線診断科、腎臓内科などにローテーション中であり、また、関連病院にて研修を受けているものもいるので、泌尿器科には、研修医および大学院生は2～3名程度であり、勤務者は教

* 現：清水市立清水総合病院

** 現：東海大学付属東京病院

*** 現：同名養病院長

Table 1. 入院患者手術統計

	左	右	両側	合計
1. 副腎に対する手術				(5)
片側副腎全摘	5	0	0	5
2. 腎臓に対する手術				(63)
腎癌根治術	4	4	0	8
腎摘出術(腎・尿管切除)	4	4	0	8
単純腎摘術	4	6	0	10
腎部分切除術	2	3	0	5
腎切石術	8	2	0	10
腎盂切石術(フィブリンコアグラム含)	13	2	0	15
腎血管再建術	1	0	0	1
腎盂尿管移行部形成術	2	2	0	4
開放性腎生検	0	1	1	2
3. 尿管に対する手術				(48)
尿管切石術	15	11	0	26
尿管膀胱新吻合術	6	6	2	14
尿管剝離術	2	0	0	2
尿管皮膚瘻	2	1	3	6
4. 陰囊内容に対する手術				(125)
除睾術	11	8	18	37
睾丸固定術	12	6	15	33
精索静脈瘤根治術	6	0	0	6
睾丸水瘤根治術	5	6	0	11
睾丸整復固定術	1	0	0	1
睾丸生検	2	2	9	13
精液瘤根治術	1	1	0	2
副睾丸摘出術	3	1	2	6
副睾丸生検又は部分切除	2	2	0	4
精管結紮術	0	0	3	3
精管・精囊造影	0	0	4	4
精管再吻合	1	0	1	2
陰のう内腫瘍切除術	0	0	1	1
陰のう形成術	1	0	0	1
陰のう試験切開	1	0	0	1

	左	右	両側	合計
5. 膀胱に対する手術				(94)
膀胱全摘，回腸導管				9
回腸導管のみ				2
膀胱部分切除術				1
膀胱憩室切除術				3
膀胱頸部吊り上げ術				3
膀胱切石術				6
膀胱碎石術				7
膀胱瘻（膀胱高位切開）				6
経尿道膀胱腫瘍切除術				35
経尿道の膀胱生検				14
経尿道の尿管瘤切除術				4
経尿道の膀胱超音波検査				2
膀胱腔瘻閉鎖				2
6. 前立腺に対する手術				(124)
前立腺癌根治術				1
恥骨上被膜下前立腺切除術				10
経尿道の前立腺切除術				92
経尿道の膀胱頸部切除術				3
前立腺針生検				1
開放性前立腺生検				9
経尿道の止血術				4
7. 尿道に対する手術				(25)
尿道切開術				6
外尿道切開				3
尿道全摘				2
尿道形成術				2
尿道脱切除術				1
カルンケル切除術				1
旁尿道膿瘍ドレナージ				1
ブジー（糸状ブジー含む）				8
直視下カテーテル交換（膀胱高位切開）				1

	左	右	両側	合計
8. 陰茎に対する手術				(5)
陰茎腫瘍根治術				1
陰茎形成 (索切除 etc)				2
ペイロニー切除術				1
尖圭コンジローマ切除術				1
9. 後腹膜腔に対する手術				(16)
後腹膜腫瘍摘除術				1
後腹膜リンパ節廓清術				12
後腹膜膿瘍ドレナージ				2
下大静脈再建術				1
10. 麻酔下の検査				(15)
逆行性腎盂造影	3	2	0	5
膀胱鏡 (バンエンドスコープ含む)				10
11. その他の手術				(19)
胸壁アテローマ切除術				1
バルトリン腺のう胞切除術				1
鼠径ヘルニア根治術				1
鼠径リンパ節生検				1
腫瘤切除				1
膿瘍切開				1
骨髄生検				9
骨髄採取				1
試験開腹				2
肝生検				1
				(538)

授以下, 6~7名である。

対象と方法

対象とした時期は, 1982年1月より1984年3月まで, 2年3ヶ月である。なお, この手術統計は, 東海大学病院において手術した症例のみを対象とし, 東海大学泌尿器科関連病院の手術は統計に入れていない。

統計は, 手術々式を中心とした。他科の手術に泌尿器科医が助手をつとめた合併手術は症例数として含めていない。また当院では腎生検は開放性腎生検を主体としており, 当初は泌尿器科医が施行していたが, 手術手技を内科医に指導し, 現在では内科医のみで施行し, 依頼, 必要があるときのみ泌尿器科がおこなっている。

Table 2. 外来手術件数

	左	右	両側	合計
環状切除術	局麻			76
	全麻			52
背面切除術	局麻			3
	全麻			14
睾丸生検				30
両側精管結紮術				21
精管・精のう造影				8
カルクセル根治手術				4
外尿道口切開				1
尖圭コンジローム切除術				37
外陰部腫瘤切除術				1
縫線のう腫				2
外尿道口腫瘤切除術				1
陰のう内腫瘤切除術				5
陰茎静脈血栓除去術				1
				256

結果と考察

入院患者に対して、539件、外来患者に対して、256件、合計795件の手術が27カ月間に施行させた。

副腎に対する手術は5例で、クッシング症候群2例、原発性アルドステロン症2例、褐色細胞腫1例であった。

腎臓に対する手術は64例であるが、腎摘、腎切石術、腎盂切石術が64例中51例あり、約80%を占めている。開放性腎生検は、現在内科医のみで施行しているため、今回の統計には入っていない。

尿管に対する手術は、尿管切石術、逆流防止術、尿管皮膚瘻が、おのおの26例、14例、6例であるが、逆流防止術は、最初の場合、Politano-Leadbetterにて、再手術例はPaquinにて施行している。子宮頸癌、子宮体癌などの婦人科腫瘍の尿管浸潤、閉塞による無尿に対する尿路変更術は当初尿管皮膚瘻を造設していたが、現在では超音波ガイド下に腎瘻を造設している。この方法は患者の状態が悪くても、局所麻酔で施行で

き、超音波プローブで腎を確認しながら穿刺針を挿入でき、かつ手術的に尿路変更するよりも、患者に対する負担も軽く、安全に施行できる長所がある。最近では当科に依頼のあった腎後性腎不全には、ほとんどTube-Nephrostomyを造設している。そのため、従来の方法による尿路変更術をおこなう症例が減少してきていると思われる。

膀胱、前立腺に対する手術は、TUR（経尿道的切除術）が最多であった。過去の統計と比較すると大差はないが、TURなど、前立腺疾患の手術数は減少傾向にある。

当院では膀胱腫瘍に対する治療方針は、全摘またはTURとしているので、部分切除は、きわめて少なくなっている。

全身麻酔の各種の検査はおもに小児に対して施行されている。また小児に対する包茎の手術は全身麻酔下にておこなっているが、麻酔覚醒、抜管後、しばらく外来にて様子をみた後、帰宅させている。なお、一部の症例では、術後疼痛緩和のためCaudal blockを麻

酔科が施行している。これにより、入院させずに全麻手術をおこなうのが普通である。

む す び

以上、東海大学病院泌尿器科における、最近の2年3カ月の手術統計について報告した。

文 献

- 1) 大越正秋・河村信夫・岡田敬司・勝岡洋治・鮫島正継・村上泰秀・早川正道・青木清一：東海大学医学部泌尿器科学教室における手術統計（1975年2月～1978年2月）。泌尿紀要 25：77～79, 1979
- 2) 大越正秋・河村信夫・木下英親・松下一男・岡田敬司・勝岡洋治・村上泰秀・青木清一・長田恵弘・三浦正彦・西沢和亮・宮北英司・川嶋敏文・白水 幹：東海大学医学部泌尿器科学教室における手術統計（1978年3月～1981年12月）。泌尿紀要 28：1183～1185, 1982
- 3) 栗田 孝・八竹 直・秋山隆弘・井口正典・郡健二郎・金子茂男・松浦 健・永井信夫・片岡喜代徳・国方聖司・朴 英哲・加藤良成・辻橋宏典：近畿大学医学部泌尿器科学教室における3年間（1979年より1980年まで）の手術症例について。泌尿紀要 27：1445～1454, 1981
- 4) 村椿 勲・豊田晶雄・高崎悦司：独協医科大学病院泌尿器科における5年間の臨床統計。西日泌尿 43：1271～1279, 1981
- 5) 北川道夫・森本鎮義・安川 修・宮崎善久・三国友吉：和歌山赤十字病院泌尿器科における入院・手術統計（1979年4月～1983年3月）。泌尿紀要 30：311～319, 1984

（1984年5月22日受付）